

島根県の地震

令和6（2024）年6月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

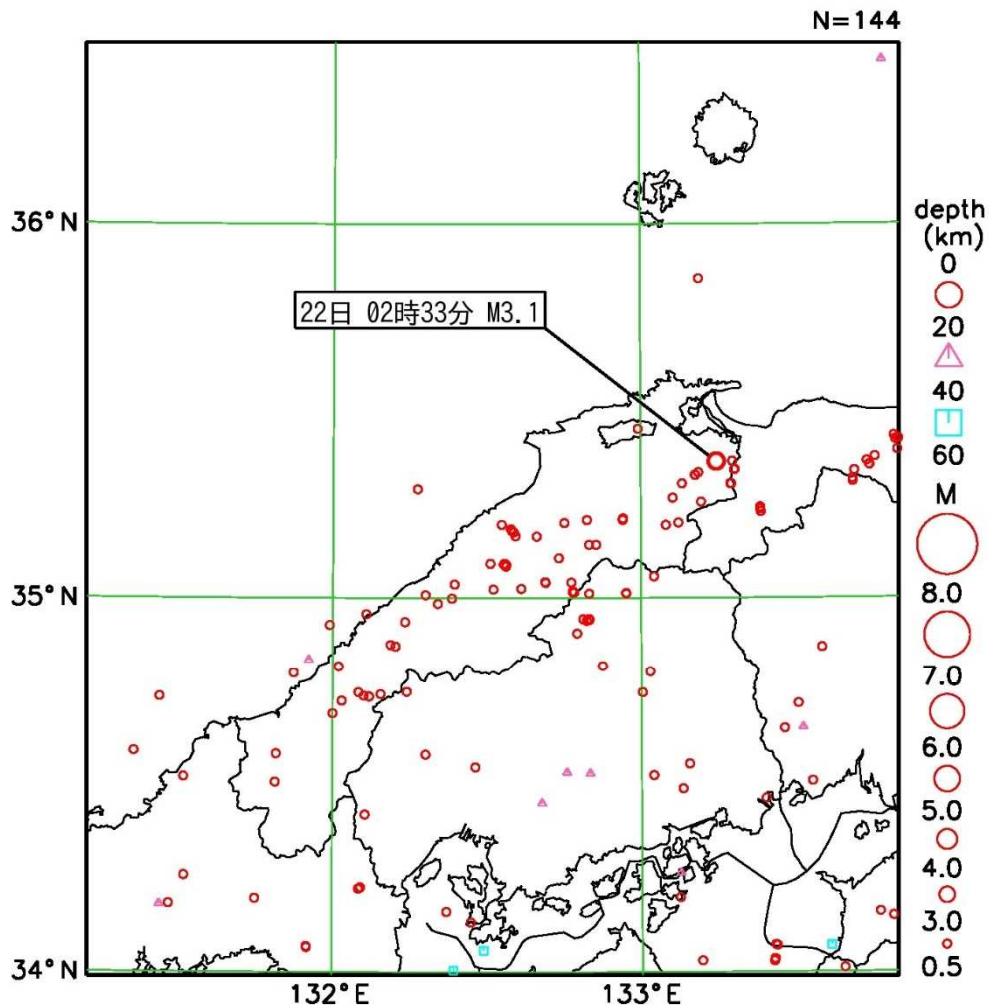
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2024年6月1日～30日

2024 06 01 00:00 -- 2024 06 30 24:00



[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は144回（5月は156回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、3回でした。

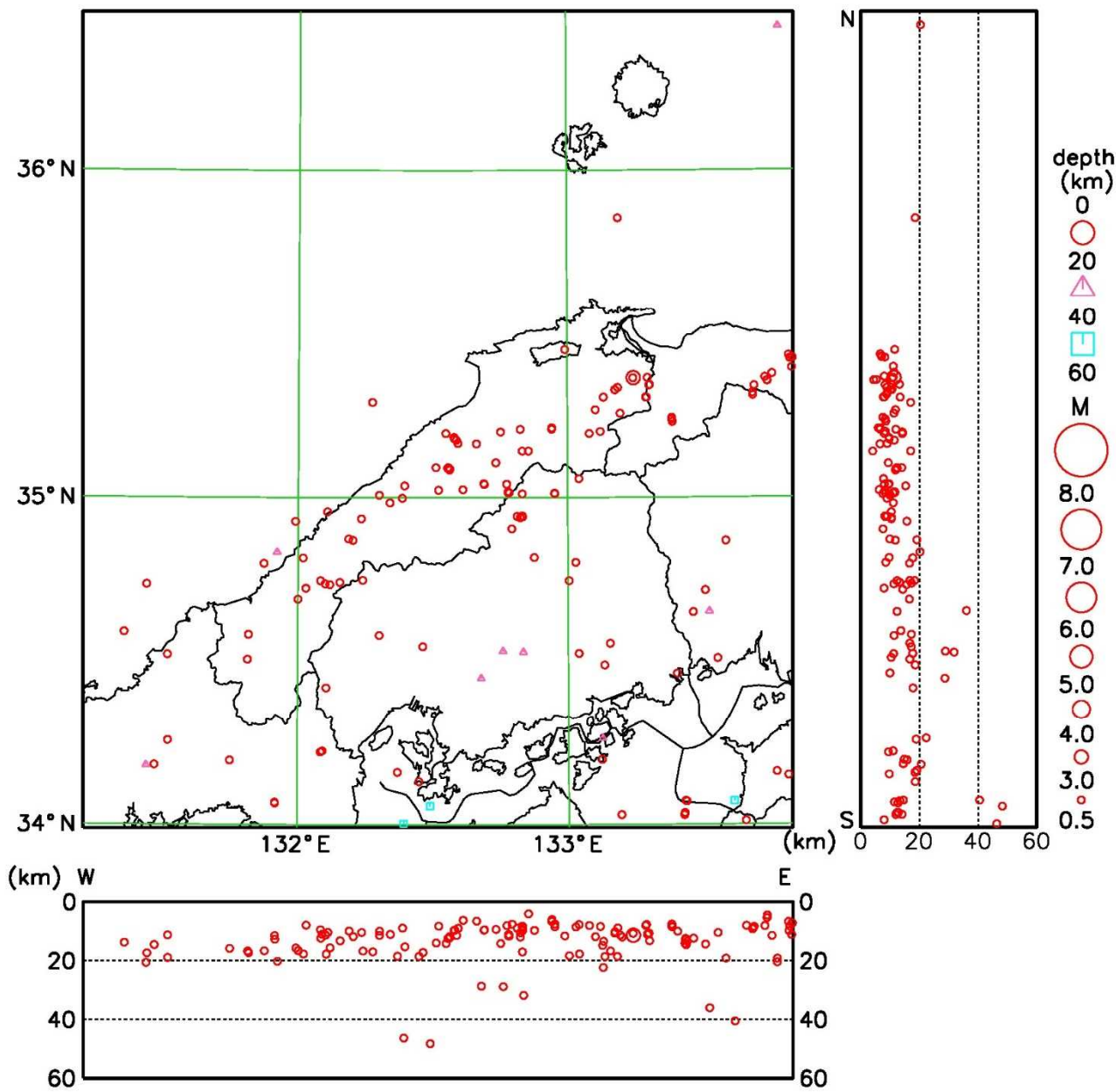
1日04時02分 豊後水道の地震（深さ39km、M4.5：地図範囲外）により、浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町で震度1を観測しました。高知県宿毛市で震度4を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度3～1を観測しました。

21日14時03分 安芸灘の地震（深さ44km、M3.9：地図範囲外）により、益田市、川本町、邑南町、吉賀町で震度1を観測しました。愛媛県西条市・大洲市で震度3を観測したほか、中国・四国地方で震度2～1を観測しました。

22日02時33分 島根県東部の地震（深さ11km、M3.1）により、松江市、安来市で震度1を観測したほか、鳥取県で震度1を観測しました。

[断面図]

2024 06 01 00:00 -- 2024 06 30 24:00



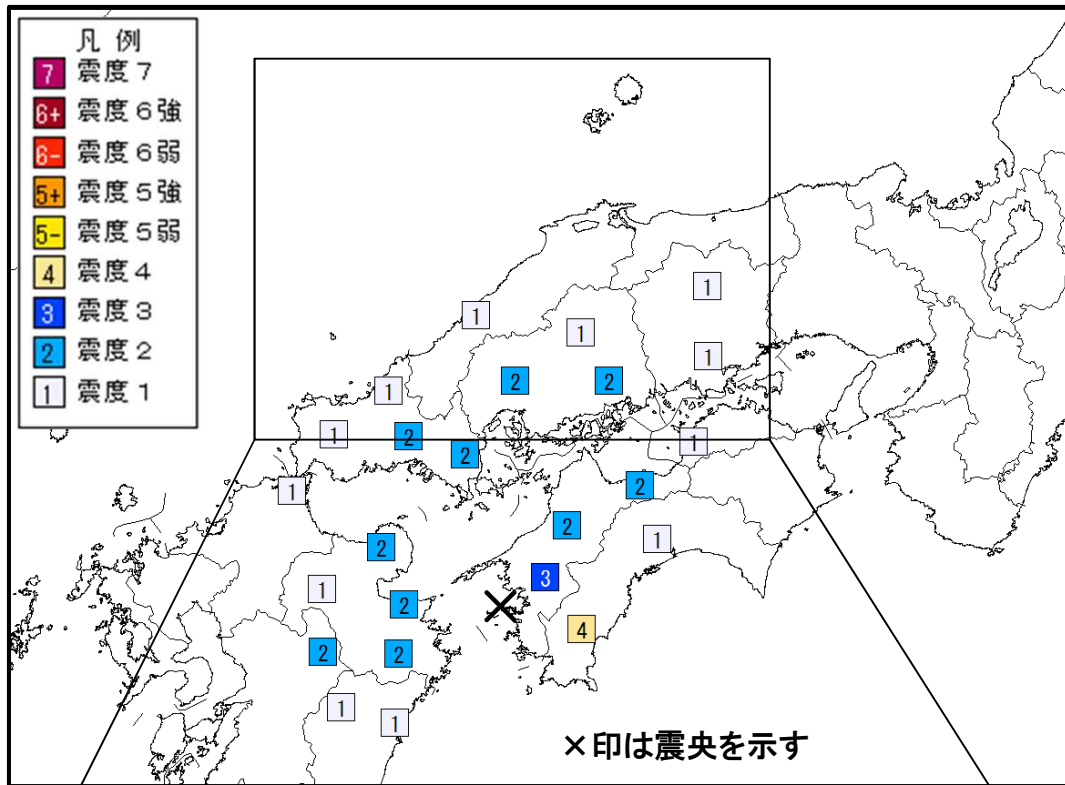
6月の島根県内の地震表（震度1以上）

発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2024年06月01日04時02分 ----- 地点震度 -----	豊後水道	33° 12.9 ' N	132° 21.3' E	39km	M4.5
島根県	震度 1 : 浜田市殿町＊, 益田市常盤町＊, 益田市美都町都茂＊, 大田市仁摩町仁万＊ 江津市江津町＊, 江津市桜江町川戸＊, 川本町川本＊, 島根美郷町都賀本郷＊ 邑南町淀原＊, 邑南町下口羽＊, 邑南町瑞穂支所＊				
2024年06月21日14時03分 ----- 地点震度 -----	安芸灘	33° 48.7 ' N	132° 39.8' E	44km	M3.9
島根県	震度 1 : 益田市常盤町＊, 川本町川本＊, 邑南町淀原＊, 邑南町下口羽＊, 吉賀町六日市＊ 吉賀町柿木村柿木＊				
2024年06月22日02時33分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 21.8 ' N	133° 14.7' E	11km	M3.1
島根県	震度 1 : 松江市東出雲町揖屋＊, 松江市八雲町西岩坂＊, 安来市広瀬町広瀬祖父谷丁＊ 安来市伯太町東母里＊				

・ 地点名の後に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

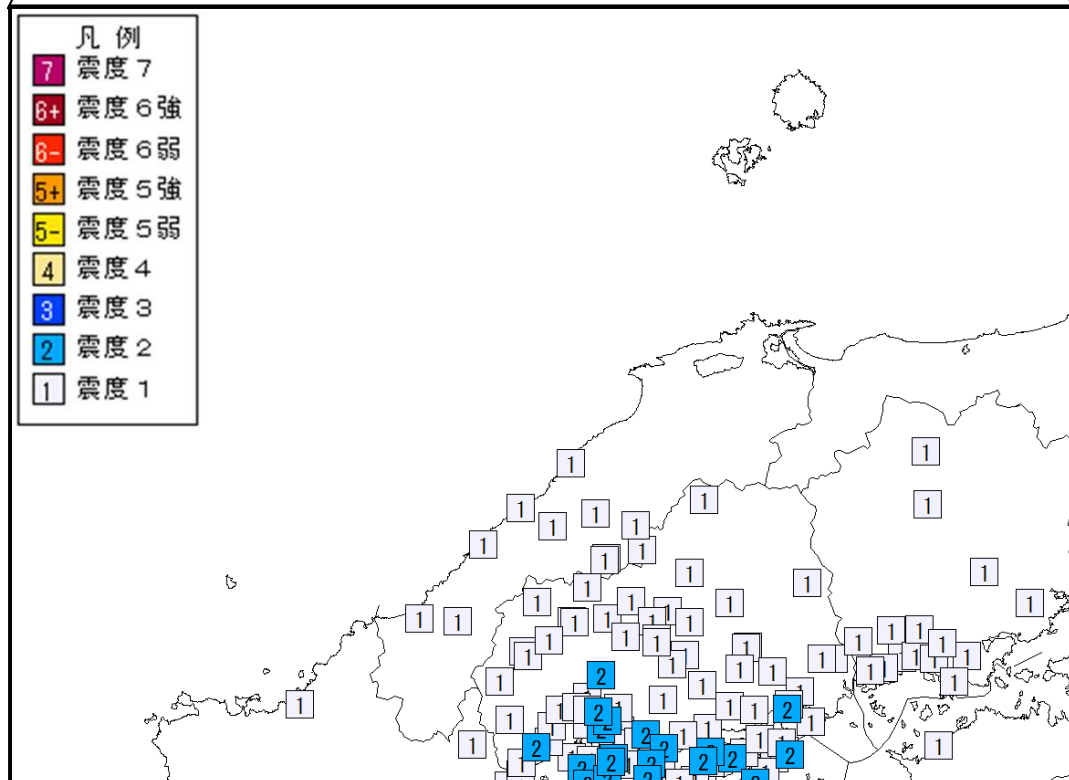
【地域震度分布図】

2024年6月1日04時02分 豊後水道



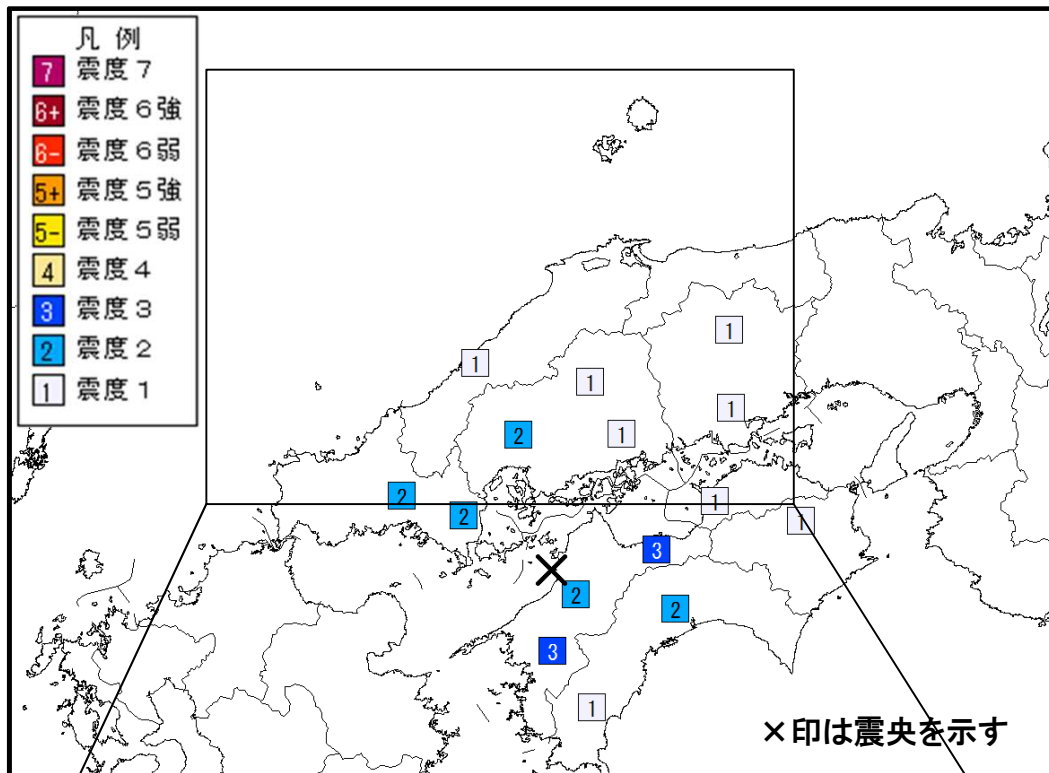
【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



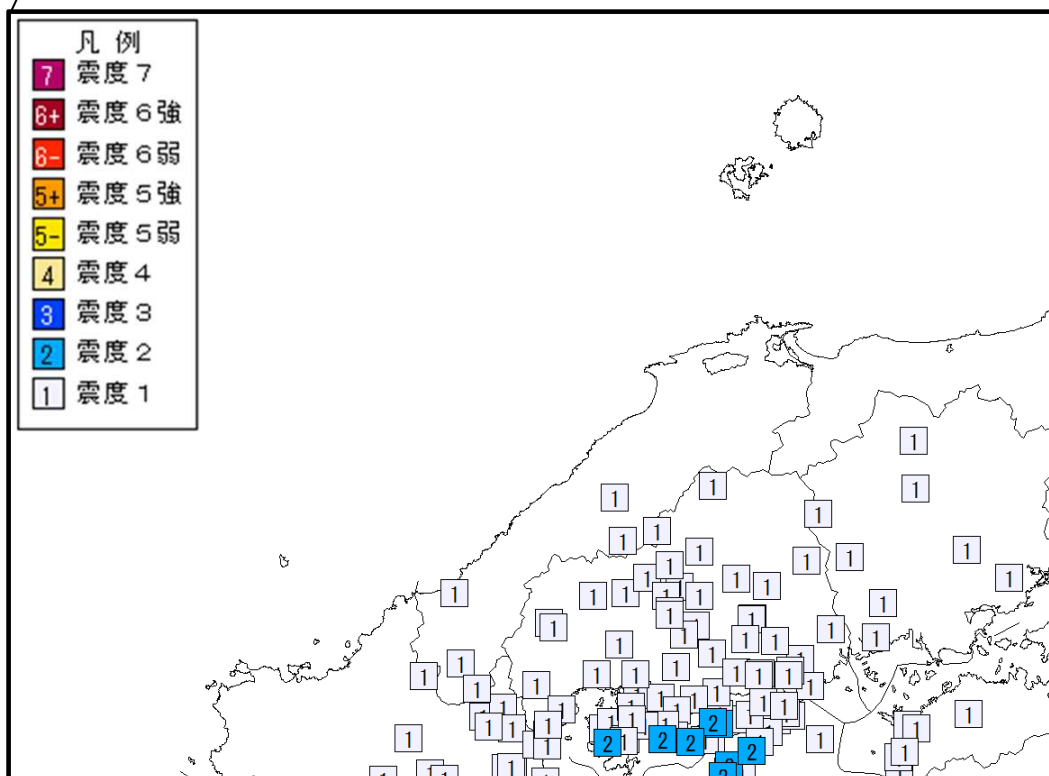
【地域震度分布図】

2024年6月21日14時03分 安芸灘



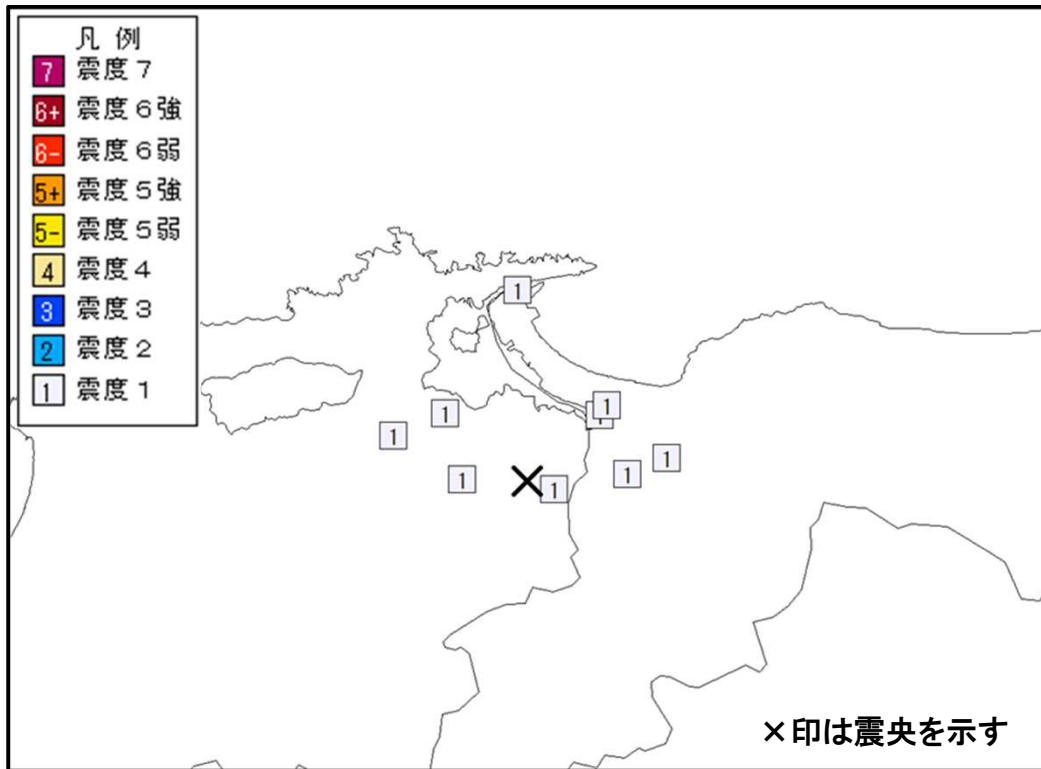
【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



【観測点震度分布図】

2024年6月22日02時33分 島根県東部



地震一口メモ

「気象業務はいま 2024」

～6月1日の気象記念日にあわせ「気象業務はいま 2024」を刊行しました～

気象記念日は、明治8年（1875年）6月1日に気象庁の前身である東京気象台において業務を開始したことを記念して、昭和17年（1942年）に制定されました。来年（2025年）は気象庁が観測業務を開始して以来、150年の節目を迎えます。

気象庁の取組の現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的に、毎年6月1日の気象記念日にあわせ「気象業務はいま」を刊行しています。

地震分野では、特集として令和6年能登半島地震の概要や気象庁の対応状況をまとめています。また、トピックスでは「巨大地震対策」として、南海トラフ地震や日本海溝・千島海溝沿いで発生する地震を網羅的に解説し、その普及啓発の取組を紹介しています。令和5年度に実施した巨大地震対策オンライン講演では、津波災害の特徴や短周期・長周期地震動の高層建物の揺れ方など、各分野における専門家の知見が報告されました。録画リンク先が掲載されていますので、ぜひご活用ください。



「気象業務はいま 2024」目次抜粋

特集2 令和6年能登半島地震

- (1) 一連の地震活動
- (2) 緊急地震速報や津波警報の発表状況
- (3) 現地調査
- (4) 臨時の津波観測装置の設置
- (5) JETT（気象庁防災対応支援チーム）の派遣

トピックスⅢ-1 巨大地震対策

- (1) 南海トラフ地震とは
- (2) 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用から1年
- (3) 緊急地震速報の発表基準に長周期地震動階級を追加
- (4) 巨大地震対策に関する普及啓発の取り組み
- (5) 令和5年度 巨大地震対策オンライン講演会

地震関係以外にも、今年号では地球温暖化や線状降水帯など、気象庁が現在力を入れて取り組んでいることを解説し、また様々な分野の方から寄せられたコラムも掲載しております。ぜひご覧ください。

「気象業務はいま 2024」は、気象庁ホームページからダウンロードできます。

→ ホーム > 各種申請・ご案内 > 刊行物・レポート > 気象業務はいま 2024

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/hakusho/2024/index.html>

